

# イースト・ジャパン柔術選手権大会2010・大会レポート



5月30日（日）、都内多摩市武道館において『イースト・ジャパン柔術選手権大会（East Japan Jiu-Jitsu Championship）2010』が開催された。この大会は東日本地区の体重別&年齢別の各カテゴリーのチャンピオン、そして優勝団体を定める大会と位置づけられている。今回は34団体が参加し、前年より100名も多く参加選手があり、総人数は320名に達するなど盛況となった。

大会の前半で行なわれたキッズの部は、5歳から14歳までと幅広い年齢が参加。その結果、10ものカテゴリーが設けられた。そして今回のキッズの部では新しい試みがなされた。それは試合を裁くレフェリーとは別に、安全面に注意を払う、もう1人のレフェ

リーが加わったことだ。1人のレフェリーはポイント入れる判定のみにほぼ専念し、もう1人のレフェリーは、主に子供が怪我をしないよう極め技が入っていないか、危険と判断したら試合を止める役割を担う。例えば、どの大会でもこんなことがよく起こるだろう。レフェリーが1人のみのため、ポイントを与える動作の最中に子供のタップを見逃してしまう。また、タップの瞬間がレフェリーには死角となって気付かない。さらに子供はタップのタイミン



グが遅い場合もある。これらができるだけ防ぐため、子供に極力怪我をさせないように試合を止めるためのレフェリーをもう1人加えた。このような子供たちの安全面に配慮した体制によって、試合は滞りなく進行した。キッズの部終了の結果、団体優勝はアップライジング柔術が獲得した。

アダルトの部は、随所でレベルの高い熱戦が繰り広げられた。とりわけ参加者が多かった青帯や紫帯は、さながらサバイバルの様相。そんな



激戦区にもかかわらず、紫帯では無差別級で優勝したサダ

ヨシ・クリモリ選手やブルーマ級を制した北井健生選手らが決勝戦でも一本勝ちを収め、存在感を示した。その他の各カテゴリー優勝選手も、熾烈なサバイバルを勝ち抜いた。

## イースト・ジャパン柔術選手権大会2010・大会レポート



茶帯ペナ級では塚田市太郎選手がパスガード、マウント、絞めで見事な一本勝ちを披露。茶帯無差別級は、決勝戦で塚田選手を得意のラペラチョークで仕留めたサミュエル・キノシタ選手が優勝し



た。黒帯はレーヴィ級、無差別級ともに同じ選手同士の対戦となったが、両決勝戦ともヘナート・シウバ選手が高本裕和選手を破り、2階級を制覇した。サミュエル選手は「ラペラチョークの完成度をもっと高めたいです。今年は総合格闘技（MMA、ヴァーリ



トゥード）を1試合やればと思っています」と目標を語った。一方、ヘナート選手も「今年は柔術で日本一になることが目標です。来月に予定されているプロの試合のオフアームももらっています」とコメントした。そして両選手とも、JJFJの大会が開催の度に参加選手も増え、レベルアップしていることに驚きを隠せなかった。それと同時にJJFJの大会を高く評価していた。

全試合終了後、団体成績が発表され、サミュエル選手、ヘナート選手が所属するインファイト・ジャパンは3位、準優勝はRBアカデミー、そして優勝はアクシス柔術アカデミーが獲得した。この団体優勝に関して、

JJFJは次のような特典を用意している。イースト・ジャパンの優勝団体所属で優勝した選手は全員、そして7月11日

（日）に愛知県立武道館で行なわれるウェスト・ジャパン選手権大会の優勝選手全員（優勝団体に関わらず）は、8月1日（日）に埼玉県立武道館で開催の全日本柔術選手



権大会の参加費が免除される。今後もJJFJは参加選手へのより良いサービスをモットーとして活動を続ける意向だ。

[>>試合結果一覧](#)